えんちょう先生のわくわくだより

NO，6　H30．5．24

先日の親子遠足には大変ご苦労様でした。年少さんは下田歌子さんの勉学所まで、よく歩きましたね。年中年長さんは頂上迄、お父さんやお母さんとがんばりました。総会の終わり頃「今日は、頂上迄、遠足に行きます」と伝えた時の、おかあさん方、「エ～・・・」の表情の方もみえましたね。確かに頂上迄はえらいからいやだなあ～と思われた方もいたと思います。でも、頂上まで登った後は、どうだったでしょうか？親子であのえらさを共有しながら、やりきった感は、ものすごく大きかったのではないでしょうか？翌日、先生達は、岐阜大学教授　春日　晃章先生の「生き抜く力を育む子ども発達学」の講義や実技の研修会に行ってきました。先生達がみんな口を揃えて「岩村こども園でやっている様なこどもの遊び方がとても大事だとわかった」と言います。春日先生のお話は、昭和60年頃のこども達と比べ、遊ぶ場所、仲間、時間（塾や習い事で）が減って、こども達の身体活動量が半分以下になっている。人の脳には、臨界期と言って、学習できる適切な時期があり、10歳を過ぎると運動神経を高める神経機能はほぼ完了し、いくら努力しても限界がきてしまう。2歳から6歳までの乳幼児期が、運動や遊びの最重要期であることを十分に意識して子どもと向き合う生活を・・・と。5／19（日）岐阜新聞にこの先生のコラムが出ていましたので、次回　お知らせしますね。

年長組

5／16　サッカー教室最後の挨拶もしっかりと。

「カランコロンカランコロンあそびましょ！」と掛け合いの遊びを楽しむ年長さん。

ボンボンを持って応援する友達の前で力いっぱい走る年長さんでした。

年少組

園庭の色んな遊具に乗って遊ぶ練習をし、入園当初と思うと随分たくましくみえる年少さんです。

年中組

大豆の芽がニョキニョキと出てきたね。自分達で新聞の輪を作って投げたり、キャッチしたり、それを使って、ケンパケンパであそんだよ。新聞一つで遊びが広がる！
新聞の輪をガムテープで張るのを手伝っていると、「園長先生、何でそんに早くできるの？すばらしい！」とNちゃんにほめてもらいました。

「ごんべさの赤ちゃんがかぜひいた～♪」と歌いながら、地面に書いた線を踏まないようにピョンピョンと跳んで遊ぶ年中さん。

大きい組さんを見ながら体操だよ

未満児組

お散歩に行ったり、一緒にお部屋で遊んだり、小さくても元気いっぱいだよ！